

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー【2019No.144】(HP 掲載)

分類：CD

作曲家：ベートーヴェン他

曲名：弦楽四重奏曲第9番ハ長調ラズモフスキー第3番他

演奏：カルテットエクセリシオ

発売：ジェイズミュージック

No.：JMCC-20217

概要：



収録曲：

ベートーヴェン 弦楽四重奏曲第9番ハ長調ラズモフスキー第3番作品59-3

Ludwig van Beethoven / String Quartet No.9 in C Major Op.59-3

シューベルト 弦楽四重奏曲第14番ニ短調 D810「死と乙女」

Franz Peter Schubert / String Quartet No.14 in D Minor D810 "Der Tod und Das Madchen"

録音場所：入善コスモホール

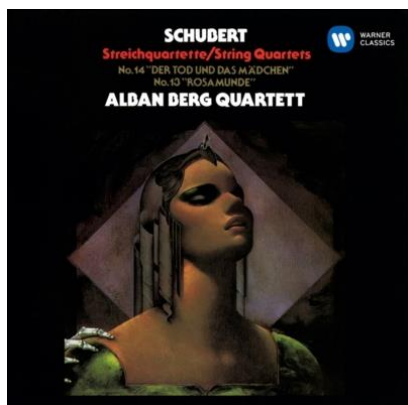
録音日：2010年4月・7月

[フェニックスホールで開催された演奏会](#)で求めてきたものです。ラズモフスキー第3番は当日の演奏曲です。カルテットエクセリシオは、始めて聴くグループでしたが、下記公式サイトに紹介があります。

<http://www.quartet-excelsior.jp/index.html>

ラズモフスキー第3番は、録音もそれほど良くなく、当日の生演奏そのままとは言えませんが、緊張感あふれる生々しい演奏ぶりの雰囲気は伝わってきます。

死と乙女は、[ディスコグラフィ\(2019No.128\)](#) でアルバンベルクの演奏について、[ディスコグラフィ\(2019No.130\)](#) でキアロスクーロの演奏について報告しています。



上記報告では、アルバンベルクの方は、ある時は、激情的で緊張感溢れるスリリングな演奏を、ある時は切なく悩ましい表情を、またある時は優しく穏やかな表情が次々と入れ替わって飽きさせない、巧みな演奏が聴きどころです。これに対し、キアロスクーロの方は、よりダイナミックに若いエネルギーをぶっつけるようなアグレッシブな演奏です。

カルテットエクセリシオの演奏は、アルバンベルクやキアロスクーロとも違った、ストレートで緊張感溢れる演奏です。

以上